

1922(大正11)年創立の歴史ある美術公募団体・春陽会を舞台に活躍し、国内を代表する洋画家・入江観(1935- 茅ヶ崎市在住)の展覧会を開催します。入江は東京藝術大学在学中からフランスの画家、ポール・セザンヌに傾倒し、1962(昭和37)年にフランス政府給費留学生として渡仏、モーリス・ブリアンションに学びながら、ヨーロッパ絵画におけるコンポジションの重要性を体得しました。帰国後、一時期スランプに陥りましたが、やがてセザンヌの影響を離れ、日本の風景を題材に、独自の透明感をたたえた画風を確立して現在も描き続けています。にじみ出る叙情性をバランスよくコントロールして表現される絵画世界は、故郷の日光や長年暮らす茅ヶ崎という現実の風景をもとにしながら、いつしか画家の内面性を伴った理想の風景に昇華されているようです。

本展覧会では、近年制作された作品と、茅ヶ崎市美術館や個人が所蔵する入江作品のなかから、湘南を描いた代表作を中心に展示します。静謐にして清澄な絵画空間をご堪能ください。



入江観 (いりえ・かん)

1935年、現在の栃木県日光市生まれ。1953年、東京藝術大学美術学部藝術学科入学。加山四郎に学び、在学中の1956年、第33回春陽会展初入選。1962年、フランス政府給費留学生として渡仏。フランス国立高等美術学校モーリス・ブリアンション教室に入学。1963年、サロン・ドートントヌ入選。帰国した1964年、春陽会絵画部会員に推挙され、安井賞候補新人展に出品。1967年、女子美術短期大学専任講師に着任し東京から茅ヶ崎に転居、以後も旺盛な制作活動を続け、毎年の春陽会展に出品。国際形象展の招待や昭和会展優秀賞の受賞、日本秀作美術展への4回の選抜出品など。1996年、第14回宮本三郎記念賞受賞。2004年、「蒼天の画家 入江観の世界展」(茅ヶ崎市美術館、小杉放電記念日光美術館)、2017年、「入江観 故郷一日光を描く」(小杉放電記念日光美術館)開催。



1.《海のアラス》2022年 油彩・キャンバス 個人蔵 2.《松林とえぼし岩》2021年 油彩・キャンバス 個人蔵 3.《双葉》2019年 油彩・キャンバス 個人蔵
4.《帰船》2019年 油彩・キャンバス 個人蔵 5.《ダイビング》1977年 油彩・キャンバス 茅ヶ崎市美術館蔵 6.《双葉》1988年 油彩・キャンバス 茅ヶ崎市美術館蔵

イベント

対談「入江観の絵画と人生」

出演：入江観(画家)、小川稔(茅ヶ崎市美術館館長)
日時：12月11日(日)14:00-(約90分)/会場 美術館エントランス
料金：無料(申込不要) ※ただし椅子席(40席)のみ要事前申込(先着順)。
11月12日(土)10:00より、電話または受付にて閉館時間にお申し込みください。

アーティストトーク

出演：入江観(画家)/日時：1月8日(日)14:00-(約60分)
会場：美術館展示室/料金：無料(要観覧券・申込不要)

ワークショップ「松の木を描く」

自分の好きな画材を持参して美術館の周囲に生えている松の木を描きます。
講師：入江観(画家)/日時：1月21日(土)14:00-16:00頃
会場：美術館2階アトリエ、美術館周辺/定員：16名(申込制・先着順)/料金：700円
対象：小学生以上(小学生3年生以下は保護者同伴)
※12月10日(土)10:00より、電話または美術館受付にて閉館時間内にお申し込みください。

ギャラリートーク

日時：12月18日(日)、1月15日(日) 各日14:00-(約60分)/会場：美術館展示室
担当：月本寿彦(当館学芸員)/料金：無料(要観覧券・申込不要)

交通案内

・JR茅ヶ崎駅南口より徒歩8分(市立図書館隣り、高砂緑地内)
・同駅南口よりコミュニティバス「えぼし号」(中海岸南湖循環市立病院線)乗車、②「図書館前」下車
※駐車場は収容台数が少ないため、公共の交通機関等でご来館ください。満車の場合は近隣の有料駐車場をご利用ください。 ※Google マップでルート検索する際は、「茅ヶ崎市美術館駐車場」を目的地に設定すると最短距離で着きます。

[ご来館の際のお願い]

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、状況によっては会期等が変更になる場合がございます。最新情報は当館ホームページをご覧ください。発熱が確認された方やマスクを着用していない方は、入館をご遠慮いただきます。ご来館の際は、感染症対策へのご協力をお願いいたします。

SNSでも情報発信しています。

